

債券・為替 ウィークリーレポート



カナダ



ブラジル



メキシコ



オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー


















南アフリカ



インドネシア


















インド

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		11/22 （11/15との比較）	11/22 （11/15との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
カナダ 	AAA	1.47% （▲0.01）	81.68円 （▲0.73%）	+1.6% 2019年2Q	1.75%	発表されたCPI（消費者物価指数）が市場予想並みとなったほか、製造業売上高や小売売上高が市場予想を上回る内容。米国の国債利回りが低下したこともあり、国債利回りは小幅低下。カナダドルは対円で下落。	景況感指数やGDP（国内総生産）などが発表予定。前週に中銀のポロズ総裁が金融政策の状況が適切であると発言したこともあり、債券・為替市場はともに現在の水準をはさんで一進一退の展開が続くと予想。
	Aaa	 金利横ばい	 金利横ばい	 景気安定	 据え置き局面		
ブラジル 	BB-	5.83% （+0.12）	25.89円 （▲0.12%）	+1.0% 2019年2Q	5.00%	発表された登録雇用創出合計は市場予想を下回る内容。過去10年で最悪のアマゾンの森林破壊の原因がボルソナロ政権の開発優先政策にあると報道される中、リアルは対円で下落。国債利回りは上昇。	消費者信頼感や経常収支、全国失業率などが発表予定。引き続き経済指標に力強さが欠け、政治経済の改革進展が期待しづらい環境下、金利水準については低下基調となる展開を予想。リアルについても上値の重い展開を予想。
	Ba2	 金利横ばい	 金利横ばい	 景気安定	 利下げ局面		
メキシコ 	A-	6.88% （+0.12）	5.61円 （▲1.15%）	-0.5% 2019年3Q	7.50%	特に注目すべき経済指標の発表はなし。米中貿易協議の先行き不透明感の高まりや将来的な追加利下げへの思惑などから、メキシコペソは対円で下落。海外投資家による国債売却の観測もある中、国債利回りは上昇。	GDPや小売売上高、失業率などが発表予定。USMCA（米国・メキシコ・カナダ協定）の年内批准へ向けた動きがメキシコペソに追い風となる中、為替市場については一進一退、金利水準については低下基調となる展開を予想。
	A3	 金利低下	 金利横ばい	 景気安定	 利下げ局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。
 ※2 国債利回りを表示（カナダ：10年、ブラジル：4年、メキシコ：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
 ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
 ※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
 ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
 ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。
 ※政策金利については、カナダ：翌日物貸出金利、ブラジル：Selicレート、メキシコ：翌日物金利を表示。
















※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
 ※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		11/22 （11/15との比較） 今後の見通し （※4）	11/22 （11/15との比較） 今後の見通し （※5）	前年比 （※3） 景気の方向性 （※6）	先週末 方向性 （※7）		
オーストラリア 	AAA	1.10% （▲0.06）	73.72円 （▲0.63%）	+1.4% 2018年4Q	0.75%	発表された景気先行指数が前月比でマイナスとなったほか、製造業PMI（購買担当者景気指数）が前月比で悪化する内容。米中関係悪化に対する懸念が台頭する中、豪ドルは対円で下落。国債利回りは低下。	特に注目すべき経済指標の発表はなし。中銀のロウ総裁の講演が予定されており、今後の金融政策の方向性についての材料となるか注目が集まる中、債券・為替市場ともに一進一退の展開を予想。
	Aaa	 金利横ばい	 金利横ばい	 景気安定	 利下げ局面		
ニュージーランド 	AA+	1.34% （▲0.06）	69.65円 （▲0.05%）	+2.1% 2018年4Q	1.00%	特に注目すべき経済指標の発表はなし。中国の景気悪化が意識される中、香港での政治的混乱が懸念されたこともあり、ニュージーランドドルは対円で下落。国債利回りは低下。	小売売上高や貿易収支、消費者信頼感指数などが発表予定。国内の経済指標の内容に加え、米中貿易協議の進展など国外の動向からも目が離せない中、債券・為替市場はともに現状水準での一進一退の展開が続くと予想。
	Aaa	 金利横ばい	 金利横ばい	 景気安定	 利下げ局面		
ノルウェー 	AAA	1.42% （▲0.05）	11.86円 （▲0.83%）	+1.3% 2019年3Q	1.50%	発表された消費者信頼感の前四半期に比べ悪化する内容。原油価格が概ね横ばいで推移する環境下、ノルウェークローネは対円で下落。米国の長期金利がやや低下する中、国債利回りは低下。	失業率や小売売上高などが発表予定。引き続き、欧米を中心とした金利動向や米中の貿易協議の進展など、海外の動向から目が離せない環境下、債券・為替市場はともに一進一退の展開が続くと予想。
	Aaa	 金利横ばい	 金利横ばい	 景気拡大	 据え置き局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

- ※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。
- ※2 10年国債利回りを表示。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
- ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
- ※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
- ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
- ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。
- ※政策金利については、オーストラリア：キャッシュレート、ニュージーランド：オフィシャル・キャッシュレート、ノルウェー：デポジットレートを表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		11/22 （11/15との比較）	11/22 （11/15との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
南アフリカ 	BB+	7.42% （+0.05）	7.38円 （▲0.19%）	+0.9% 2019年2Q	6.50%	発表されたCPIは市場予想を下回る内容。中銀は市場予想通り政策金利を据え置き。大手格付け会社が国債の格付け見通しを「ネガティブ」に引き下げたこともあり、ランドは対円で下落。国債利回りは上昇。	企業信頼感や貿易収支などが発表予定。前週に発表された中銀の声明文から市場では2020年以降の利下げの可能性が高まったと受け止める向きが多く、金利水準は短期的に低下基調をたどる展開を予想。
	Baa3	 金利横ばい		 景気停滞	 利下げ局面		
インドネシア 	BBB-	6.51% （+0.03）	0.77円 （▲0.36%）	+5.0% 2018年4Q	5.00%	特に注目すべき経済指標の発表はなし。市場予想通り、中銀は政策金利を据え置き。声明文では引き続きハト派姿勢が維持されていたこともあり、インドネシアルピアは対円で下落。国債利回りは上昇。	消費者信頼感指数などが発表予定。国内の政治・経済両面で特段の好材料が見当たらない中、世界的な金利の低下基調や米中の政治・経済対立を背景に、金利水準は低下基調が続くと予想。
	Baa2	 金利横ばい		 景気安定	 利下げ局面		
インド 	BBB-	6.19% （▲0.03）	1.51円 （▲0.03%）	+5.0% 2019年2Q	5.15%	特に注目すべき経済指標の発表はなし。香港のデモに対する中国の対応を契機として、米中関係の悪化や貿易協議進展に対する懸念が高まる中、インドルピーは対円で下落。国債利回りは低下。	GDPなどが発表予定。引き続き、金融緩和や法人税減税によるプラスの効果と、米中関係が短期的に心理面でマイナスの効果をもたらす中、債券・為替市場ともに一進一退の展開を予想。
	Baa2	 金利横ばい		 景気回復	 利下げ局面		

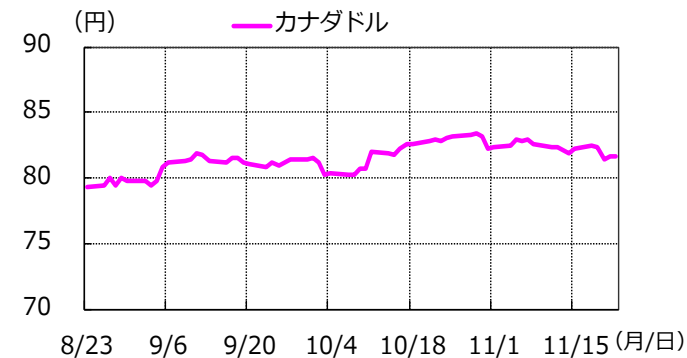
出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

- ※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる本国通貨建て長期債格付を表示。
- ※2 国債利回りを表示（南アフリカ：3年、インドネシア：5年、インド：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
- ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
- ※4、5 今後の見通しについては、今後1か月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
- ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
- ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。
- ※政策金利については、南アフリカ：レポレート、インドネシア：7日物リバースレポ金利、インド：レポレートを表示。

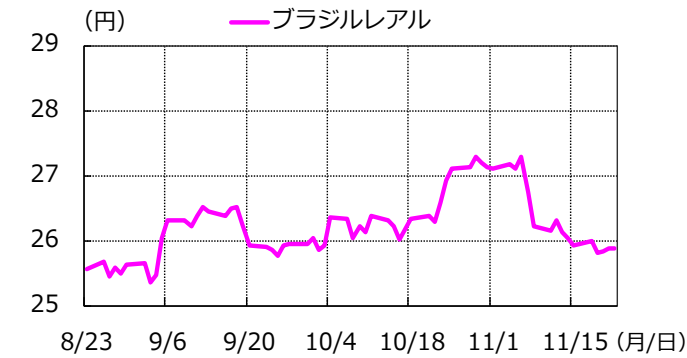
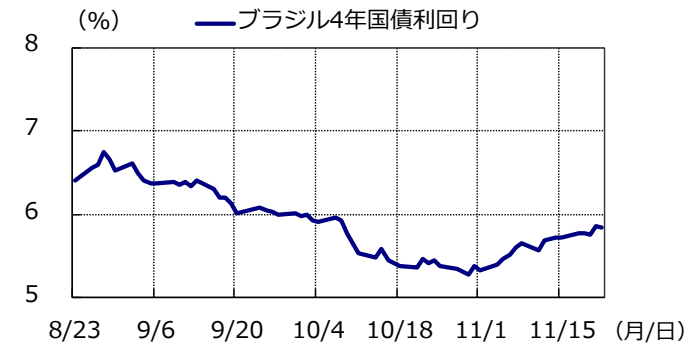
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2019/8/23~2019/11/22

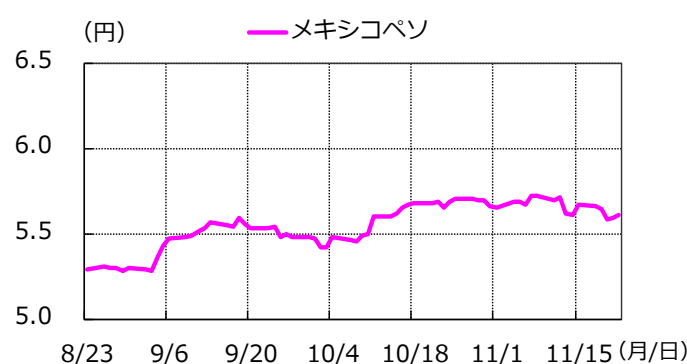
カナダ



ブラジル



メキシコ

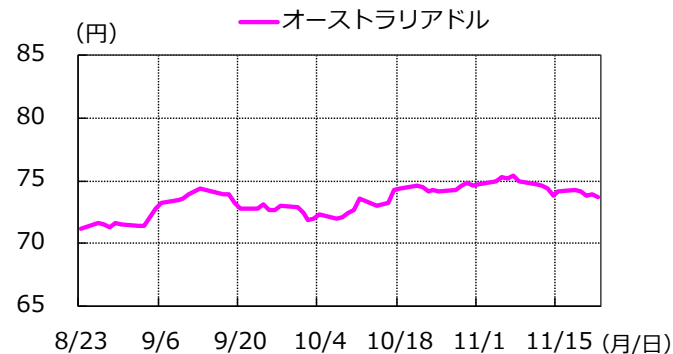
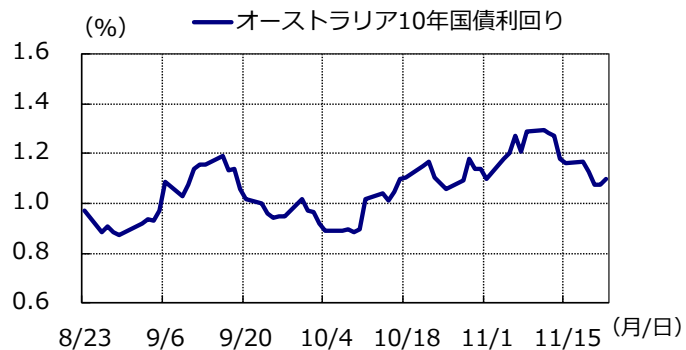


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

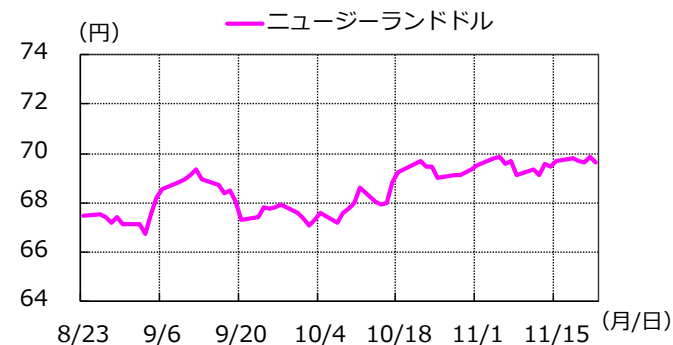
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2019/8/23~2019/11/22

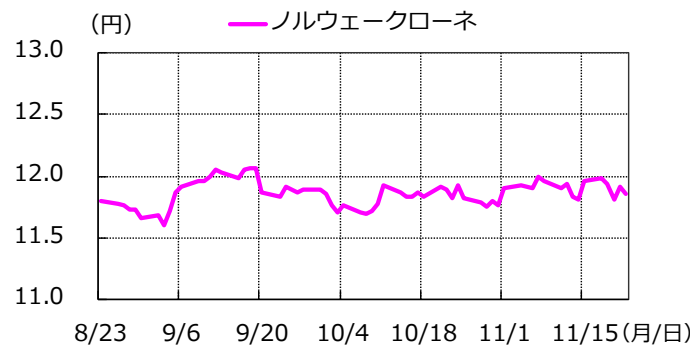
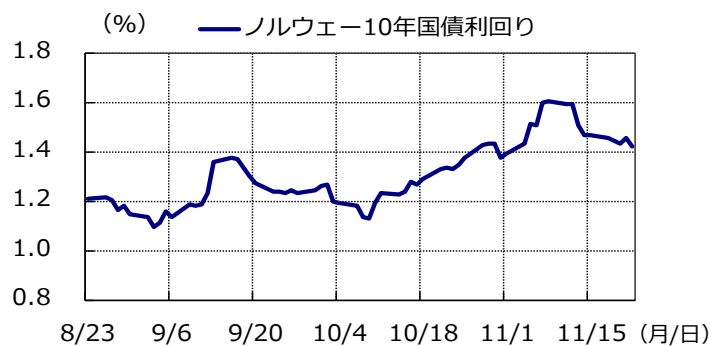
オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー

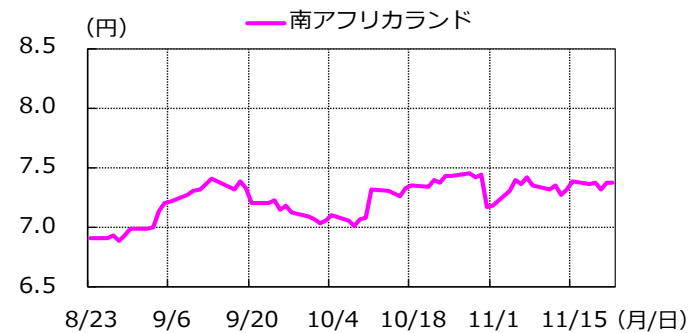


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバークのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

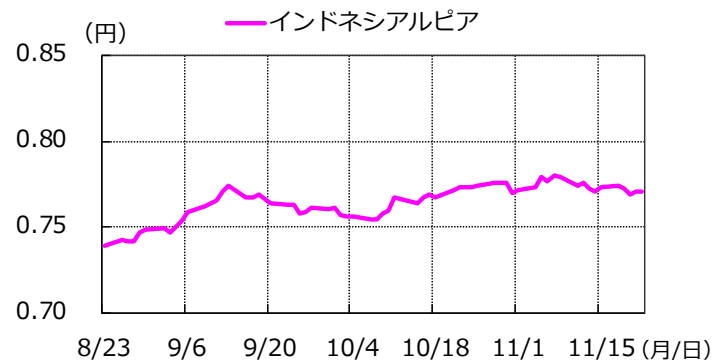
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2019/8/23~2019/11/22

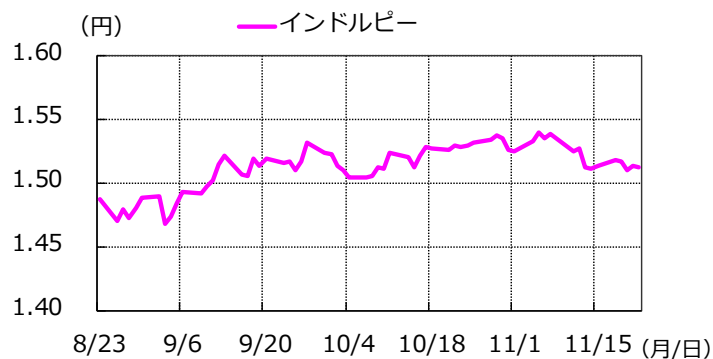
南アフリカ



インドネシア



インド



※インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。 ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.85%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.09%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。